

第 123 回 火力専門委員会 構造分科会 議事録

- I. 日 時：2024 年 2 月 7 日（水）13 時 30 分～15 時 45 分
II. 方 法：WEB 会議（Webex 使用）
III. 出席者：飯田（JERA）、茂山（電中研）、西田（三菱重工長崎）、西野（配管技術研究協会）、
横山（川崎重工業）、小高（富士電機）、大熊（関西電力）、金城（沖縄電力）、栗本（JERA）、
関根（IHI）、井山（東芝 ESS）、菊山（三菱重工長崎）
オブザーバー：藤田（マックスコーポレーション）
事務局：中村

IV. 資料（CS キャビネット 構造分科会会議資料登録）

- 123-1 第 122 回構造分科会議事録（案）
123-2 構造分科会委員名簿
123-3 第 106 回火力専門委員会議事録（案）
123-4 第 108 回規格委員会議事次第（案）
123-5-1・2 規格委書面投票 No.624・623_書面投票意見と対応表

V. 議題

1. 前回議事録確認

【資料 123-1】

前回議事録（案）の確認を行ない、3.報告事項（3）及び4.審議事項（2）の「書面投票」の記載を「火専書面投票」に修正のうえ議事録案は承認された。

2. 分科会委員・役員の承認

【資料 123-2】

以下の委員の新任・再任案件が報告され、新任・再任候補として次回火力専門委員会に推薦することが出席委員全員の賛成により承認された。

（新任）須間氏

（再任）横山委員

また、飯田主査の火専委員長への就任にともない、飯田主査が現在、火専委員長と構造分科会主査を兼務している状態となっているが、議題提案側の構造分科会主査と承認側の火専委員長を兼務することは好ましくないため、飯田主査の主査の退任と、西田幹事が主査に、栗本委員が幹事に就任する人事案（西田主査、茂山副主査、栗本幹事）を火力専門委員会に提案することが了承された。

（飯田主査は主査退任後も一定期間、構造分科会委員を継続）

3. 報告事項

(1)火力専門委員会報告

【資料 123-3】

11 月 30 日開催の第 106 回火力専門委員会の主要項目が報告された。

○構造分科会委員の承認 なし

○第 122 回構造分科会（11/7）の報告

○火専書面投票の No.97（第Ⅳ章_圧力容器改訂案）、火力専門委員会書面投票 No.100（第

I 章「総則」改訂案)、火専書面投票 No.98 (J NCF141TB に関する事例規格案) の結果報告

○火力専門委員会委員長選任結果報告

○審議事項

- ・火専書面投票 No.97 (詳細規定_第IV章 圧力容器 改訂案)、火専書面投票 No.100 (詳細規定_第I章_総則_改訂案) の意見対応案が了承され、規格委員会への提案が承認された。
- ・火専書面投票 No.98 (J NCF141TB に関する事例規格案) の意見対応案が了承され、規格委員会への提案が承認された。

(2) 規格委員会報告

【資料 123-4】

12月21日開催の第108回発電用設備規格委員会の議事のうち、火力関連事項に関して報告された。

○火力専門委員会の審議事項

- ・詳細規定第I章「総則」・第IV章「圧力容器」の改訂案、J NCF141TB に関する例規格案の提案がされ、詳細規定のI章およびIV章は規格委書面投票を行うこと、事例規格案は材料専門委での書面投票可決後に規格委の書面投票行うこととなった。

○火力専門委員会報告

4. 審議事項

(1) 規格委書面投票 No.624 (第IV章 圧力容器 改訂案) の意見対応

【資料 123-5-1】

規格委書面投票 (2/7 現在、投票中) での投票意見に対する対応案について、確認・審議を実施した。本文中に漢字と平仮名、漢字と記号の表記及び送り仮名が異なる表記が混在していることや新旧数式エディタの違いにより対応が難しい箇所 (意見対応表 No.32 ほか) については次回改訂時に統一することとし、新数式エディタとソフトとの相性等の影響により見えづらくなっている箇所については、製本前に確認・修正 (意見対応案 No.34) を行うとともに、記載の解釈が紛らわしい箇所について変更 (「設計圧力に静水頭を加える→設計圧力には静水頭を加える」、「ソケット及びスリップオン式フランジ溶接→ソケット溶接フランジ及びスリップオン溶接フランジ」) を行う回答案が了承された。また、下付きアルファベット文字のフォントが小文字なのか大文字なのかを確認することとした (対応案 No.3)。上記内容を反映した意見対応案を火力専門委員会の三役が確認した後、意見者に回答することとした。

(2) 規格委書面投票 No.623 (第I章 総則 改訂案) の意見対応

【資料 123-5-2】

規格委書面投票 (2/7 現在、投票中) の意見を反映し作成した回答案について、確認・審議を実施した。単位(3)項にある N/mm^2 の記載は MPa の方が良いとの意見に対して、次の(4)項に「JIS、発電用火力設備の技術基準の解釈では、材料の許容応力の単位は N/mm^2 であるが、本規格では単位を MPa とした。」との記載があることから、応力の単位については MPa に変更することとし、また、本文中に混在している漢字と平仮名の表記の統一等については、第IV章圧力容器の改訂案の意見に対する対応案と同様、次回改訂時に統一することとする意見対応案が了承され、火力専門委員会三役確認後に意見者に回答することとした。

5. その他

飯田主査より今後、実施予定の基本規定改訂作業の説明があった。

詳細規定の改訂にあわせて基本規定の改訂を行う必要があることから、現在、基本規定の改訂案のたたき台を飯田主査が作成中であるが、今後、基本規定が引用する詳細規定の番号の各担当委員にチェックを依頼する予定。次回の構造分科会にて改訂案を確認・審議した後、火専の書面投票を提案することが周知された。

6. 次回開催予定

開催日時： 2024 年 5 月 10 日（金） 13 時 30 分～17 時

開催方法： 対面による

以 上